

第1回 常滑東小学校及び常滑西小学校の通学区域見直し説明会  
(北条地区保護者対象)

日時	平成25年5月22日(水) 19:00~21:00
場所	福祉会館 北館2F会議室
職員	加藤教育長、榊原部長、澤田課長、小竹指導主事、山本指導主事、吉房課長補佐、竹内課長補佐、稲葉主事、小出主事

○参加者： 男性 16名  
女性 29名  
合計 45名

○常西小保護者： 6名  
常東小保護者： 36名

○北条地区： 41名  
瀬木地区： 1名  
保示地区： 1名  
奥条地区： 2名

○1年生： 19名  
2年生： 9名  
3年生： 11名  
4年生： 6名  
5年生： 5名  
6年生： 4名  
該当無： 5名(園児等)

○本日の流れについて（小竹指導主事より）

○あいさつ（加藤教育長より）

本日はご多用の中をお集まりいただき誠にありがとうございます。また、日頃は学校教育にご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

はじめに、常東小と常西小の学校区の見直しの問題につきまして、児童、保護者や地域の方々にご心配やご不安をおかけしておりますこと、まずもって心よりお詫び申し上げます。

特に北条区の皆様方にとっては、昨年そのような話は聞いていなかったと、戸惑いやお怒りがあると思います。もし、私がみなさんの立場であれば、同じように思います。大変申し訳ございません。

さて、今後、私はこのように進めてまいりたいと考えております。

まず、子どもたちに、学校が分かれても友達であり、仲間であるということ。また、常滑中学校区はもともと一つだった、お祭りに象徴されるように旧常は一つということをお伝えしたいと思います。

友達や仲間の大切さを道徳、特別活動等の時間を利用して教えていただきます。また、児童会等を利用して、そのことをテーマにして子どもたち自身にも考えて取り組んでもらいます。さらには、各行事等を利用して、子ども同士の交流を進めていただきます。

そして、3月のお別れのセレモニーへと持っていきます。また並行し、不安のある子は、教育相談の時間等を活用し、担任や必要があればスクールカウンセラーがフォローします。

来年度になれば、それぞれの学校で出発式が行われ、新たな学校づくりを始めます。常西小も、常東小の子どもを受け入れるのではなく、新生常西小をつくるというつもりで学校運営を進めます。

また、児童会でも、新しい学校づくりをテーマに取り組んでいくようにもっていきます。教員人事面では、常東小の子どもを知っている常東小の先生方にある程度常西小に移ってもらいます。

そして、年度当初の学年学級懇談会や家庭訪問等を利用して、家庭の様子を聞きます。5月ごろには、教育相談等の時間を活用し、子どもたちから様子を聞きます。その時にはスクールカウンセラーに助言をいただいたり、必要な子どもには、スクール

カウンセラーとの面談の時間を取ったりします。

教師の観察だけでは気づけない部分があります。それを補うために、QUテストの導入も考えております。これは、不登校の可能性の高い子ども、いじめを受けている可能性の高い子ども、学校生活への意欲が低下している子どもを発見し、早期対応に繋げることができると言われております。

学校では出会いがあり別れがあります。学校はそうした機会を通して、生きていく力を身につけていけるよう子どもたちを育てていきます。

大震災を挙げるまでもなく、これからの子どもたちの長い人生の中で、悲しい別れを経験することになるかもしれません。通学区域の変更という機会は、子どもたちに親しい友達と別れるという悲しい体験を強いるかもしれません。

しかし私は、この体験から子どもたちに大事なことを学ばせたい。悲しいことがあった時、友達はなくてはならない存在であること、仲間のありがたさ、絆の大切さ、そうしたことを子どもたちが学ぶ場にしたいと思います。

常滑地区では昭和55年に常滑小学校が常東小と常西小に分かれました。その当ても、このような話し合いが行われたと思います。しかし、その当時の子どもたちは、保護者の方や地域の方々の協力や見守りの中で乗り切ってきました。

また、常滑以外の地区でも、統廃合や通学区域の見直しは行われておりますが、子どもたちは大人たちが思っているよりもたくましく乗り切っていることを聞いております。

今回も、皆様方のご協力をいただき、子どもたちにとって価値ある機会としたいと思っております。是非、今一度、子どもたちのために皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

- 通学区域の見直しについて（澤田課長より）  
（パワーポイント、配布資料に沿って説明。別紙資料参照）

## Q &amp; A (榊原部長、教育長が回答)

&lt; ( )は子どもの学年 &gt;

女性1 (常東小2年、4年)	Q1：保護者負担軽減のために体操服を補助するとのことだが、今の体操服をそのまま使ってもよいか？	A1：支障なければ、常東小の校章が入ったままの体操服を使っていただいてもかまわない。
女性1	Q2：算数セットやピアノは補助の対象となるか？	A2：補助の対象にさせていただきたいと考えている。
女性2 (常東小校区の保育園児)	Q3：常西小は誘い合い登校だが、これを集団登校に変更していただくことはできるか？	A3：誘い合い登校も集団登校もそれぞれ良さがある。常西小の校長の意見としては、保護者と相談して、保護者と学校の意見が一致すれば、集団登校とすることもやぶさかではない。 誘い合い登校も利点があるので、ご理解いただきたい。
女性3 (常東小1年)	Q4：第5案で初めて北条区が常西小校区になる案が浮上したが、なぜ国道の東側まで見直しの対象となるのか。 人数合わせのために常西小に移るとなると納得できない。	A4：教育委員会の試算が必ずしも当たっているとは限らないが、平成30年に763人で25クラスが想定されている。今の常東小は29クラスまで収容可能であるが、校長の話では25クラスに収めておきたいとのこと。 北条区で国道東側の見直し対象地域の子どもは約50名。ストーリー通りにいけばいいのだが、教育委員会の予想を超えて更に飛香台の人数が増えた場合、数年後に北条地区の子どもに移っていただくことが考えられる。 今回いっぺんに見直せば数百人規模で沢山の仲間と移ることができる。もし今回この地域を見直しの対象とせず、数年後に学校運営が難しくなった際に移っていただくとき、50人という人数で移ることになる。 今回見直しをすれば、数年後に50人だけ変わるという事態を避けることができる。 今回見直しをするリスクと、数年後に変

		わるリスクを考えたとき、後者の方が好ましくないという判断をした。
女性3	Q5：それは見込みの話。もし飛香台の人口が思ったより増えなかった場合は、見直しをしないという判断はあるか。	A5：想定よりも飛香台の人口が伸びず試算が外れたではないかという批判と、今回見直しをせず数年後に見直しをすることになるときの批判がある。 子どもが受ける負担を考えた時、今回変わっていただく方が良いという結論に達した。
女性3	Q6：より良い環境のために校区を見直すと書かれているが、わが子にとって2年生で常西小に変わることは、より良い環境とは思えない。距離も1.2キロから1.8キロになる。 見直し前と見直し後で通学路を通る人数は出したか。	A6：今常西小で100人で、見直しにより更に100人増えるので、200人になる。いっぺんに通学路を通ると長い列になることは承知している。 道路拡幅は難しいが、何らかの方法で安全対策を講じたい。 大学教授と研究会をもち、アドバイスを受け、できるかぎり安全を確保していくことを考えている。
男性1 (常東小1年)	Q7：一木橋のある道を通学路にすることは危ない。ショッピングモールが新しくできて交通量が増えると危険度が増す。 そのため、ガードレール設置等の具体的な安全対策を示していただかないと納得できない。 今すぐにでも安全対策をして態度で示してもらわないと納得できない。 こうしたいと思う、とは言うが、それができず、事故が起こったらどのように責任をとるのか。	A7：一木橋のある道へのガードレール設置は不可能と考えている。現在グリーンのカラー舗装とラインが引いてあるが、この部分にプラスチック製の棒を立てることを検討している。 新しいショッピングセンターは朝早くから開く予定なので、登校時に交通量が増える可能性がある。 ただ、どの道でどのように交通量が増えるかは調査中であるので、この問題意識を持ちつつ安全対策を行っていきたい。
男性2 (常東小1年)	Q8：今年の4月、名古屋から飛香台に引っ越してきた。名古屋の小学校から途中で転校させるのは嫌だったので前倒しで常滑に来た。 来年、斧口に家を建てる。同じ常東小に通いたいので、飛香台に引っ越してきたのだが、今回のことで困っている。	A8：斧口であれば常西小に変わっていただくことになる。しかし、どうしても常西小へ移ることで困難なことがあれば個別に相談させていただく。

<p>女性4 (常東小1年 幼稚園年中)</p>	<p>Q9：私は小学校1年生の時に交通事故に遭った。常西小に移ると距離が長くなるのでたいへん心配だ。移るのなら、子どもが3、4年生くらいになって体力がついてきたころにしてほしい。</p>	<p>A9：先ほども申し上げたが、個々に特別の事情があれば、相談させていただく。 検討委員会の中で、スクールカウンセラーや学校の先生とよく話し、常西小に通うよう努力した上で、それでも難しければ学区外通学を認めればいいのかという意見があった。 ご家庭で検討していただき、私どもやスクールカウンセラーも相談に応じたい。</p>
<p>女性5</p>	<p>Q10：6年生と妹弟には特例措置があるとのことだが、兄弟で別の学校に通うことはできるか。</p>	<p>A10：別の学校に通って構わない。</p>
<p>女性5</p>	<p>Q11：誰が常東小にとどまり、誰が常西小へ移るのか、それは教えてもらえるのか。</p>	<p>A11：お答えできると思う。ただ、一覧表にしてお見せするのは難しいと思うので、個別に聞いていただければ、必要な情報は提供する。</p>
<p>男性1</p>	<p>Q12：そもそも、人数合わせで北条地区が入っていて、それについて納得できる答えがない。 国道より東側の北条地区が常西小に行く必要があるのかどうか。 25クラスが理想とのことだが、26クラスでもいいのでは。</p>	<p>A12：想定の話なので説明しきれない部分がある。ただ、50人増えることでおそらく常東小は28クラスくらいになると考えている。 私どもの読み違いがあってさらに飛香台が増えると30クラスになることもある。常東小のキャパシティは29なので、29クラスでぎりぎりクリアできる可能性もあるが、もしこれを超えると、どこかの区域で常西小に移っていただくリスクがある。そのため、今回見直しの対象にさせていただきたい。 北条区を犠牲にするのかという気持ちはよく分かる。そのため、納得できないということであれば個別に相談いただき、常東小のままということもできないことはない。 相対的な価値観の中で一つ一つ詰めていった結果、今回常西小に移っていただくことが子どもへの負担が少ないと考えている。</p>
<p>男性2</p>	<p>Q13：資料6ページの常東小と常西小</p>	<p>A13：出していない。</p>

(常東小2年)	<p>の児童数推移予測について。本当にここまで児童が増えるのか。</p> <p>平成30年以降の児童数予測は出しているか。</p>	<p>あと6年も経てば各学年における飛香台の子どもの数は増えているが、その子どもは卒業するので、おそらく人数は落ち着くだろうと考えている。おそらく平成30年まで見ておけば、その後はそれほど急激に増えることはないだろうという予測である。</p>
男性2 (常東小2年)	Q14：数値の根拠が分からない。	A14：常滑市の住民基本台帳に加え、年間24名ずつ常東小が増えていくという見込みで試算している。
男性2	<p>Q15：この表からすると、平成30年まで増加し、あたかも今後も増えていくような感じだ。</p> <p>しかし、実際はこれ以降減っていくこともあり得るのでは。</p> <p>すると、北条地区はあたかも保険をかけられている感じだ。北条も見直しの対象にして保険をかけておけば間違いないだろうということか。</p> <p>そんな考えは納得いかない。それぞれ問題が大きい。</p>	<p>A15：おっしゃるとおり数字合わせである。当然、数字があって初めて学校の規模や教員数や教室数を想定しなければならない。</p> <p>管理を任されている教育委員会としては、人数ありきで、それから様々な準備をすることになる。</p> <p>今回見直しをせず、将来的に常東小のキャパシティがいっぱいになったとき、なぜ平成26年のときに見直しをしなかったのかという批判が必ず出てくる。</p> <p>そのため、今回お願いしている。</p>
女性3	<p>Q16：今回いっぺんに見直すというのは、その都度見直すのが面倒くさいからか。</p> <p>一回見直しすれば楽だからということか。</p>	<p>A16：その都度見直すという考えもあるが、これが許されるのかどうか。</p> <p>その都度見直す場合、小学校に入学を控える子どもはどちらの学校に入学するのか毎年分からない状態が続いてしまう。</p> <p>検討会でも、何度も見直しをするのは子どもにもリスクがあるので、一度に変わった方がよいというのが結論であり、教育委員会に答申がなされた。</p>
女性6 (常東小2年)	Q17：これはもう決定しているのか。	A17：決定ではない。
女性6	Q18：決定みたいな話をしているので、決定という錯覚をしてしまった。何のための話し合いか？	A18：これでぜひお願いしたいと考えている。
女性6	Q19：今日の説明会で意見を聞いて見直しをするのではないのか？	A19：意見は聞くが、検討会で十分検討している。

		最終的には教育委員会定例会にて決定する。
女性6	<p>Q20：コミュニティが分断されるのは避けたいとのことだが、我が家の周り人がいないので、誘い合いができない。同じ通学団の中で、うちの子だけが常西小になってしまう。</p> <p>そもそも北条区を見直しの対象にしなければこんな問題は生じない。</p> <p>検討会のメンバーの中に、実際にこの地域でかつ子どもを持つ人がいたのか。</p>	<p>A20：まさにこの北条区に該当する人が2人検討会委員に入っている。</p> <p>いろんな角度から検討させていただいた結果、納得していただいた。決して説得したわけではない。</p>
女性7 (常東小1年、2年)	<p>Q21：子どものメンタルケアについて、具体的に子ども何人に対しどれくらいのスクールカウンセラーを配置するのか。</p>	<p>A21：他市でも統廃合や新学校新設により子どもたちが分かれたり、学校を移ったりしている。</p> <p>子どもは大人が思っているよりたくましく、スクールカウンセラーが入らないと本当に困るということは聞かない。</p> <p>そのため、そんなにスクールカウンセラーが必要とは思っていない。</p>
男性3 (常東小2年、保育園年長)	<p>Q22：常西小の老朽化対策はどうなっているか？</p>	<p>A22：アベノミクスにより国から大きな補助金がついた。24年度で予算がつき、25年度で大規模改修を行う。</p>
男性3	<p>Q23：単純に数合わせで言っているのが皆感情的になる。</p> <p>常東小と常西小とのすり合わせはどうなっているか？今の時期からやれるのか？正直、無理ではないのか。</p>	<p>A23：常西小の校長も色んなことを考えている。</p> <p>常東小と何が違って何が一緒かということもきちんとすり合わせようという意識も持っている。</p> <p>数十人という数だと、どうしても常西小流に合わせてくださいという意見があるかと思う。今回、常東小から来る人数の方が多いので、常西小流のままやっていくことはない。</p> <p>常東小の文化を持った子どもが常西小に来るので、新生常西小と言えるぐらい、様々なことをきちんと行っていく。</p>
女性8 (保育園年長)	<p>Q24：私は、今回の手紙が来て初めて自分の地域が常西小に変わることを知っ</p>	<p>A24：検討会の中で十分時間をかけて検討したため、基本的に変えるつもりはな</p>



	<p>た。</p> <p>私たちの意見を踏まえただうえで、また議論していただくのが普通ではないかと思う。</p>	<p>い。まったく変える予定がないのに、説明会を開くことはないのではないかというご意見もそのとおり。</p> <p>検討会の検討結果、説明会でのご意見、その他意見を伺った中で、最終的に6月の教育委員会定例会で決定させていただく。そのときに、北条の方からこういったご不満等があったことを説明する。</p>
女性8	Q25：決まったら、もう一度説明会があるということか？	A25：こういった形で説明会を行うことは今のところ考えていない。個別の相談は受けさせていただきたい。
女性8	Q26：どの程度まで学区外通学を認めるのか。	A26：画一的に考えず、それぞれのケースを十分に斟酌する。
女性9 (常東小4年)	Q27：瀬木地区は検討しなかったのか。常東小に近い子どもが常西小に行っても近いと思う。	A27：検討した。検討した結果、瀬木地区はそのままとした。 常東小が目の前なのに、常西小に移ってもらうのはいかなものかと。
女性9	Q28：私たちからすると、常東小を超えて常西小に通うことになる。話がおかしい。	A28：そういったことも踏まえただうえで、今回の提案をさせていただいた。
女性3	Q29：どうしてそう考えたのか。	A29：人数をいかに調整させていただくかという中で、常東小と常西小の間は今の線が引いてある。ここを動かすと更にいろんなご意見が出ると思うので、そのままとし、それ以外の地区で、今回見直しをお願いしている。 何度も申し上げるように、どうしても納得できないという方については、個別にご相談いただきたい。